



「両方ともカンパチだね。そろそろ泳がせを始めなせえよ」と船長。
 そこで、全員泳がせの道具を下ろして準備万端。指示ダナはアジと同じで海面から8メートル。
 すると釣友の塙くんが竿をしながら。いよいよカンパチのお出ましか! と思ったが、上がったのはアカヤガラ。

●Tackle Guide
 竿はグラスワンピースの粘りのあるものがおすすめ。硬い竿を使うときは、ハリスの強度に対応するクッションゴムを付けるのも一手。船長推奨の泳がせ仕掛けはヒラメ用、できればハリス8号仕掛けがいいとのこと。



▲良日はイサキとアジで50尾以上の釣果も見られる

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
 これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

寒くなると油断しがちな日焼け対策。船上は海面の照り返しもあるので釣り座の紫外線は意外に強めです。秋～冬も日焼け止めをお忘れなく。

青物&根魚狙いのアジ泳がせと手堅いコマセ五目のリレー釣り

◎南房相浜港発↓相浜沖

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

今回はユニークな乗合船を出している南房相浜港・良栄丸の取材。10月下旬、釣友2名とともに同港へ向かった。良栄丸が得意とするメニューは、早朝にアジを釣り、その場で釣れたアジをエサに泳がせ釣りをしたのち、コマセ五目に転ずるリレー釣り。
 泳がせ釣りの主なターゲットはハタやヒラメで、この時期はカンパチなどの青物も回遊。今秋は1.5〜3.5キロのカンパチが好調に釣れているとのこと。期待が高まる。

サビキにギューン!?

当日の乗船者は私たち3名を含めた総勢4名。四隅に分かれて支度を済ませ、午前5時に出船となった。15分ほど走って相浜沖のポイントに到着。水深10〜15メートル前後の岩礁帯とのこと。「上から8メートルでやって

ください!」アジ用のサビキ仕掛けを投入。タナに合わせると早々にアジが単発で上がり、しばらくしてコマセが効き始めるとダブル、トリプルで釣れ上がる。サイズは泳がせのエサにちょうどいい15〜20センチほどの小型だが、金色を帯びていて実にうまさうだ。「エサで余ったアジは持って帰りなせえよお。うまいからよお」と船長。すると「あー! やられたあー!」と右トモの中川さんが悲鳴を上げた。話を聞くと、

「サビキに掛かったアジに食いついてギューン、バチンよ」と悔しさをにじませていた。「それは残念でしたね」と言った私も、直後にギューンときてバチン。一瞬の出来事で仕掛けをそっくり持っていかれてしまった。

その長い口で岩場のすき間にいる甲殻類や小魚を捕食するらしい。南房で近年増えており、刺身や焼き物にするのとおいしい魚だ。続いて中川さんにアタリ。これもアカヤガラだ。それをカメラに収めて席に戻った私の竿にもコッコツ。早合わせは厳禁、ギューンと竿が絞り込まれたところでエイヤツと合わせを入れるとグイッと竿が曲がった。浮かび上がったのは赤くて長いシルエット、またまたアカヤガラだ。

安定のイサキ

その後もアジは釣れたが、泳がせにはヒットしなくなり、「そろそろコマセに行きましょ」と7時半に移動。15分走ってポイントに到着。水深は15〜20メートルほど。ここも岩礁帯で海面から10メートルの指示ダナで再開する。コマセ五目の主なターゲットはイサキやマダイ、カンパチなどの青物。私は大物に備えてハリス6号8メートルの仕掛けをチョイス。もちろん泳がせの竿もセ



▲アカヤガラは釣れば1メートル以上の良型ぞろい

ットして、全員が2本竿でのトライだ。しかし、どちらの竿にも反応がない。「この潮だと魚も手強いなあ。この間までこんな感じじゃなかったけど...」と船長。冷え込みによる水温低下と極端に水色が澄んでしまったのが原因らしい。それでも魚がいらないわけではなく、誘いを入れればイサキがポツポツ上がる。突如、塙くんの泳がせ竿がギューンと派手に絞り込まれる。しかし、竿を手にする前にバレてしまった。仕掛けを上げるとハリスが切れている。私が「このエリアで以前モロコが上がったのを見たよ」と彼に話したので底付近を狙っていたらしく、根ズレしたのだらう。その後も好転せず。「残り1時間は朝のポイントに戻ってやってみましょ」と10時前に移動となった。泳がせの仕掛けを投入し、コマセ釣りのほうはいサキ仕掛けをセツ。これには面白

◎船宿information
 南房相浜港
良栄丸
 ☎0470-28-2153
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=泳がせ釣り&コマセ五目乗合一人1万円(氷付き)、コマセ、付けエサ持参
 ▶備考=予約乗合、4時半集合。ほか一つテンヤ&タイラバへも。土日祝日は午後船も(2名以上で出船)。

渡辺 良男船長

いようにイサキが食ってきた。それを見た釣友たちも、ハリス長を3メートルに詰めてお土産のイサキを釣っていると、「マハタが上がったよお」と船長の声にトモに向かうと、中川さんが30センチほどのマハタを手に入っていた。コマセ釣りのオキアミエサに食ったそうだ。11時に沖揚がり。皆さんイサキは良型をキープして各人10尾ほど。当日の夕方、船長に取材のお礼の電話を入れたところ、午後船のお客さんが泳がせ釣り2キロのカンパチを上げたとのこと。その言葉に釣り師の血が騒ぎ、リベンジを誓ったのだ。

知得! Tips and Tricks
泳がせ釣りのアドバイス

ハリが親孫式の仕掛けを使う場合は、エサ付けは親ハリは鼻掛け、孫ハリは背掛けがおすすめ。ポイントが根の荒い岩礁帯なので、ドラグを滑らせすぎると根ズレでハリス切れの原因になるので、道糸を強く引いて滑るくらいのきつめに調節しよう。アタリがきたら早合わせは厳禁。強く引き込んでから、竿を持ち上げるように合わせよう。

▲アタリがきても慌てず食い込みを待つ

●すずき よしかず/洗濯機を買いに行きました。「3万円もあるね」と言ったら「だったらあなたが洗濯担当ね」と言われて20万円もするのを買われました。